

【資料】大阪歴史博物館特別展「渡来人 いずこより」を見る 2017.5.18.

渡来人のふるさとから たたら源流を眺める手掛かりに by Mutsu Nakanishi



渡来人のふるさと探しはとりもなおさず朝鮮半島から伝来した数々の新技術のルーツ探しでもある。日本の国家形成にも大きな役割を演じた鉄素材・鉄技術の伝来交流についても、いまだによくわからない。ユーラシア大陸の西端で生まれた人工鉄・製鉄技術が長い年月をかけて大陸を横断。

中国・朝鮮半島を経て日本に伝来したことが、定説で、3世紀の魏誌東夷伝弁辰の条には「国、鉄を出す。韓、わい、倭 皆従がいて之を取る」と記され、鉄を通じての交易があったことが記されている。

しかし、朝鮮半島との鉄の交易そして 鉄技術日本伝来の実像はいまだによくわかっていない。

「朝鮮半島の中で どんな人たちによってどう育まれ、どんなルートで 海峡を渡ったのだろうか？」

交易された鉄素材の実態・韓鍛冶と呼ばれる鍛冶技術の伝来と変遷の実態のみならず、たたら製鉄技術の源流 鉄技術伝来の実態は 対馬海峡をはさんでぴつとりと途絶えられたままである。

ユーラシア大陸西端で生まれ、年月をかけて大陸を横断し、中国・朝鮮半島に到達した人工鉄・製鉄技術がその後どのような道・技術変化を遂げながら海を渡って日本にやってきたのだろうか・・・

技術の伝来・継承には人の交流なくしてはなし得られず、朝鮮半島からの渡来工人のルーツをたどることで、中国・朝鮮半島での技術伝承の実態が見えてくる。渡来人の故郷の解明には非常に興味がある。そんな興味で、今回の大阪歴史博物館の特別展「渡来人はいずこから」に興味深々で出かけました。

渡来人とその故郷 朝鮮半島 東アジアの文明の扉を開いた漢による楽浪郡の設置 BC108

約1500年前 日本で国づくりが始まるころ、大陸の先進文化を日本列島に伝えて大きな影響を与えた朝鮮半島の渡来人。

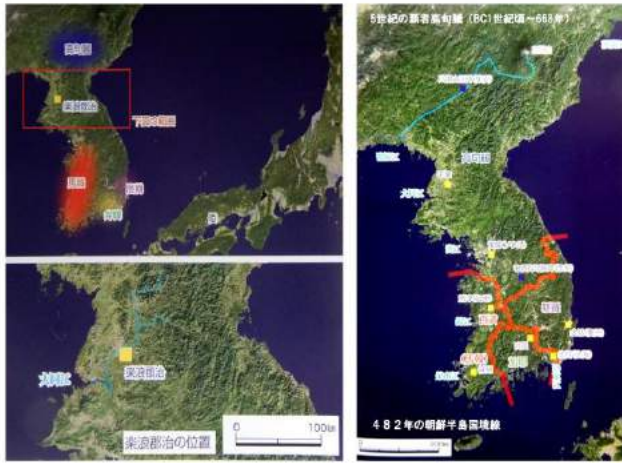
「朝鮮半島との交流が盛んになる中 大量の鉄がヤマト王権にもたらされ、また半島の人々などが一族まとまって移り住むことも増えた。これらの人々を渡来人という。渡来人は日本に住んで、土木・建築・馬具や金属加工・絹織物・須恵器を作る技術を伝えた。

また、漢字・儒教・仏教などを伝えるとともに、ヤマト王権での記録や財政・政治にもたずさわり、その後の日本の技術や文化に大きな影響をあたえた」 図録より 書き写し

そんな渡来人たちの朝鮮半島の故郷はどこか？ また どんなルートをたどり、日本のどの地域で先進技術を育んだのか？ 日本の国づくりが始まる中 日本の資料のみでははっきりしなかった 歴史的背景や渡来文化・技術が与えた影響などが一層はっきり浮かび上がってくる。

朝鮮半島が大陸の先進技術を持ちえたのはBC108年中国王朝漢が楽浪郡を設置し、朝鮮半島支配をはじめ、それを契機として高度な中国文明が周辺諸国に流れ込み、周辺諸国それぞれが先進文明を取り入れて、国づくりをすすめる。 対馬海峡を境に接する日本にも先進の文明が流れ込むこととなった。大陸の先進文化取得の窓口が朝鮮半島であった。





朝鮮半島北部では 高句麗が台頭し、南部では馬韓50余国并韓12国辰韓12国の中から、百濟・伽耶・新羅が台頭し、日本列島各地や倭とも緩やかなつながりを持つ。

その後楽浪郡は313年高句麗に滅ぼされることとなり、南部では 三国が競うあう三国時代にはいる。
 この中で 百濟は高句麗に苦しめられ、倭に助けを求めるが、668年新羅によって滅ぶ。
 伽耶は豊富に鉄を産する鉄の王国であったが、弱小国の集まりで、百濟や新羅に浸食され、562年新羅に併合される。
 一方、新羅は5世紀末で高句麗に服属しつつ黄金の国として発展。550年頃百濟の領域 562年伽耶を制圧し、高句麗・百濟とも対立するが、最終的に朝鮮半島を統一する。

これら朝鮮半島の混乱は隣国日本にも影響が数多くあらわれ、大量の渡来人が生まれる背景ともなる。

新羅は倭に敵対する勢力と広くされているが、考古資料からは新羅系のもも数多く、日本列島各地と広く交流があったことがわかる。

大阪歴史博物館 特別展「渡来人 いずこより」



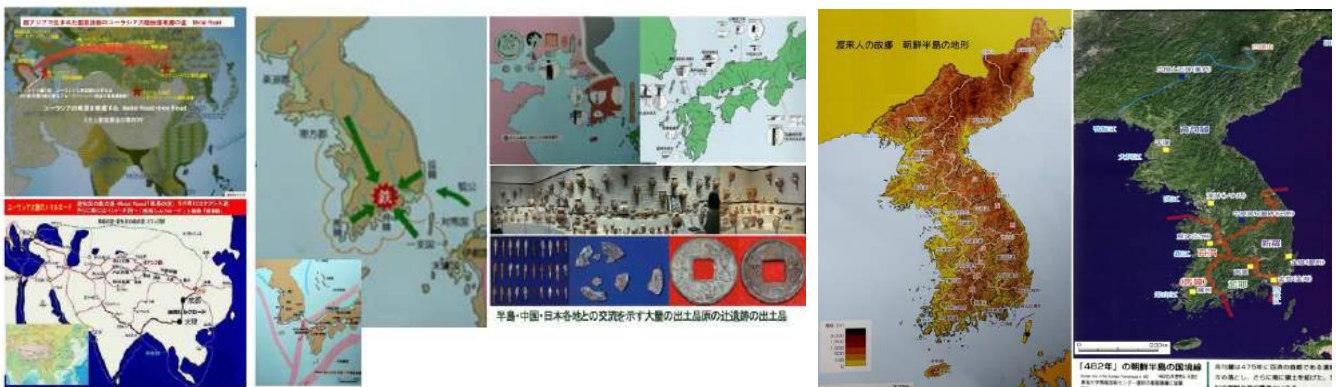
日本列島と朝鮮半島との間の交流は古くからあり、朝鮮半島の文化は日本文化の形成にも大きな影響を与えた。文化を伝える役割を担ったのは「渡来人」と呼ばれる人たち。
 その足跡は朝鮮半島の文物からたどることができる。

しかし渡来人の出身地である朝鮮半島ではそれぞれの地域に個性的な文化がある。
 特に数多くの渡来人が大陸・半島の新しい文化を伝えた三国時代(4～7世紀)には 高句麗・新羅・百濟・伽耶といった国々に分れて存在するため、それらをひとくくりにはできない。
 よってその文物が「いずこより」もたらされたかを明確にすることにより、渡来文化の具体像、さらには細かな歴史的背景が見えてくる。

この特別展では近畿地方やその周辺地域で出土した朝鮮半島に関する資料で展示を構成しながら、渡来人の「出身地」にスポットを当てて、当時の具体的な交流像をビジュアルに描く。

展示では中央を介さないような多様な交流など、多様な交流の歴史があったことを伝えながら、改めて両地域の文化への関心を高め、交流を深めることにつなげる。

大阪歴史博物館 特別展「渡来人 いずこより」パンフレットより



参考「和鉄の道・Iron Road」 by Mutsu Nakanishi

◆ たたら製鉄概要

<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/index.htm#和鉄の道>

◆ 「南北市羅(してき) 朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」 2011.8.25」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1109yayoiironroad.pdf>

◆ 鉄の起源・鉄の伝播探求

「ユーラシア大陸を東西に結ぶ鉄の道 Metal Road」 Review 2015 2016.1.7.

愛媛大古代鉄研究所「鉄の起源・伝播 ユーラシア大陸各国研究連携プロジェクト」

報告会 聴講記録まとめ 2015

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1601metalroad201500.htm>

◆ 「たたら製鉄の謎 たたら製鉄のルーツに迫る」 2015.1.1.

【資料】 弥生時代中・後期の吉野の半島交易拠点集落「カラカミ遺跡」資料まとめ

「南北市羅」朝鮮半島との交易で栄えた吉野で弥生時代中・後期の製鉄炉が初めて出土

<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1501karakami00.htm>

◆ 大阪弥生文化博物館 2016年春季 特別展「鉄の弥生時代」

「ユーラシア大陸における鉄の発展史と弥生時代の鉄」 愛媛大村上恭通教授講演聴講メモ 2016.4.30.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1605metalroadweb.pdf>

【和鉄の道 たたら製鉄 概要 pdf file】

1.	風来坊 和鉄の道を訪ねて
2.	「たたら製鉄」日本独自の直接製鉄法
3.	「たたら」の語源・関連言葉・地名
4.	奥出雲・播磨 たたら「金屋子神」の伝承
5.	日本各地に残る和鉄の道 風景
6.	東アジア製鉄の歴史年表中国・朝鮮・日本
7.	鉄の起源とユーラシア大陸における鉄の発展史 ユーラシア大陸の東から西へ 「鉄」東遷の道 ユーラシア大陸のIron Road 愛媛大学古代鉄研究所研究発表録まとめ



大阪歴史博物館 特別展「渡来人 いずこより」を見る 2017.5.18.

1. 特別展「渡来人 いずこより」概要

日本の国づくりが急速に進む時代 朝鮮半島から数多くの渡来人がやってきて、先進文化・技術を伝えた。その渡来人たちが都への道の第一歩を踏み出した地「難波」。

そんな難波の地にある大阪歴史博物館で特別展「渡来人 いずこより」が開催されている。

パンフレットによれば

「近畿地方やその周辺地域で出土した朝鮮半島に関係する考古資料から、古代 日本列島にやって来た渡来人の「出身地」にスポットを当て、古代の多様な交流像を具体的に描く」のが目的と。

願ってもないこと 朝鮮半島とひとくくりで袋小路になって いまだに解けぬ謎 日本のたたら源流。これに手がかりが得られるに違いないと興味深々で快晴の5月18日出かけました。



展示内容 展示区分

1. 渡来人とその故郷
2. 楽浪、東アジアの文明の扉を開く
3. 大渡来前夜 近畿地方における4世紀以前の朝鮮半島系遺物
4. 舶来品を手に入れて 古墳出土品から見たふるさと探し
5. 新しい生活様式と渡来人 集落遺跡出土品からふるさと探し
6. 角杯と鳥足文 特徴的な土器から見たふるさと探し
7. 難波と朝鮮半島 上町台地北端を舞台とした朝鮮諸国との交渉



「渡来人の故郷をどのようにして たどるのか？」会場に入って一番びっくりしたのはその展示法。特別展では渡来人が日本にやってきた時代を前記した区分で時代分けして、それぞれの時代ごとに 近畿地方やその周辺地域で出土した朝鮮半島に關係する文物資料と渡来人がもたらした文物・技術と朝鮮半島で出土する文物を直接対比展示し、地域の特徴や技術を考古学の最新成果を織り込んだ解説もパネル展示されている。出土した遺跡や出土地域が分布図で展示されているのも、朝鮮半島並びに日本での展開状況を理解するうえで 非常にわかりやすい。また 出土品が朝鮮半島から搬入されたものと日本で製作されたものとがはっきり、区別されて明示されているのもうれしい。私が一番知りたかったうれしい展示である。



大阪歴史博物館特別展「渡来人 いずこより」会場 2017.5.18.



伽耶土器

伽耶系の在地の土器

百済系の鳥足文土器の近畿における分布 4世紀後半～6世紀前半

例えば、日本に搬入されたものと在地で製作されたものとがはっきりしない表示が多い中で、土器でいうと百済・新羅土器と百済・新羅系土器などと出土区分がはっきりしている。土器は渡来人が日本で生活した証拠を知る一番の手がかり。そして、搬入品でないことがクリアになれば、渡来人の故郷が見えてくる。同じことは 技術についても同じで、文物が動いただけでは、技術の移転伝承は進まない。人の交流の証拠を知ることで、技術の伝播が見えてくる。



出土地を伝える朝鮮半島の甑



難波宮跡出土の新羅の印花押文土器



百済系の鳥足文土器の近畿における分布
4世紀後半～6世紀前半



河内・近畿出土の長足文土器 6世紀

須恵器の生産地での出土がないので、
還元焰小製品は搬入品の可能性が高い

また、近畿では河内で数多く出土するが周辺地域では出土せず、ダイレクトにヤマト王権と百済との結びつけを暗示

1. 弥生時代から古墳時代の前期にかけての近畿 朝鮮半島交流の萌芽から大渡来前夜へ

弥生時代末期から初期ヤマト王権の時代にかけて、近畿各地域と朝鮮半島との交流はどうだろうか？

弥生時代 近畿では朝鮮半島から直接交流で文物・文化が入った兆候はまだ見られない。

近畿に朝鮮半島の文化が直接渡来したというよりも、地域から隣の地域へと文物・新文化が伝えられながら、広がったというのが実態であろう。

硬質土器やト骨がみられ、後期には格子タタキの土器などの朝鮮半島の土器片が断片的にみられるようになるが、この格子タタキの土器文様は定着しなかった。この理由も近畿と朝鮮半島の交流がまだなかったのが原因であろう。むしろこれらの文物は各地域間や朝鮮半島を行き交い、交易を進める海人によってもたらされたものであろう。朝鮮半島交流の萌芽ととらえられる。

一方 古墳時代前期になると 初期ヤマト王権の中心 纏向遺跡では伽耶や馬韓からの搬入されたとみられる大量の土器(土器片)や威信材が出土し、鍛冶工具なども出土する。

古墳時代前期後半になると他の地域を含めて活発化する伽耶との威信材の交流の先駆けが、初期ヤマト王権の中心地に見える。

鉄製品は鍛冶工具と鉄滓・韃・鉄鏃・鉄剣などが出土し、韃を使った高温鍛冶が予見されるが、鍛冶炉などが見つかっておらず、北部九州との結びつきの中で 小規模な高温鍛冶が始まったのか・・・

今回の展示では 纏向遺跡の「鉄」については 大きくクローズアップして取り上げていない。



古墳時代前期初期ヤマト王権の中心で大量の朝鮮半島南部の文物が出土 鉄製品・鍛冶具も出土



● 朝鮮半島系土器 まとめ

近畿地方特にヤマトには古墳時代の開始とともに巨大な前方後円墳が登場し、多量の鏡や鉄製品が副葬され、他地域を圧倒する。この背景にはヤマトを中心とした広範なネットワークの成立があり、朝鮮半島からの物資・技術がヤマトにもたらされたためである。その交流の目安となる朝鮮半島系土器を眺めてみる。

近畿地方での古墳時代前期以前の朝鮮半島系土器は30点程度あり、瀬戸内や山陰の土器総量と比較しても多い。

また、1遺跡あたりではタタキの破片が10数点出ている菅振遺跡を除けば 纏向遺跡で、伽耶・馬韓系の土器。

ヤマトの中心地での出土。

ただし、北部九州と比較すると足元にも及ばないこともよく知っておかねばならない。

- ◎ 志岐原の辻: 弥生後期から古墳前期の楽浪土器や三国時代の陶質土器が無数に出土
- ◎ 楽浪土器は北部九州 伊都国三雲や奴国雀居で出土しているが、近畿では一点も出土していない。
- ◎ 博多湾に面する西新町では三国時代初頭の朝鮮半島土器が多数出土するとともに、古墳時代前期の段階で日本列島でいち早く竈を持つ竪穴建物が100棟余り見つかっている。
- ◎ 博多遺跡ではカマボコ形断面の韃羽口を用いての大規模な鉄器生産が行われている。

これらから見ると古墳時代前期の段階までは 依然として北部九州が大陸の情報多く持ち合わせ、ダイレクトに大陸の情報や近畿に流入するのは5世紀の古墳時代中期を待たねばならない。

日本における鉄素材や実用鉄器の生産については いろいろの説があるが、

愛媛大村上教授は日本における実用鉄器の鉄素材供給体制の確立は 鍛造剥片をあまり伴わぬ大量の高温熔融鉄滓が出土する多数の鍛冶炉が出土する博多遺跡にはじまるとしている(季刊考古学137号 聞きかじりby M.Nakanishi)こととよく符合する。



纏向遺跡出土羽口と鉄滓



博多遺跡 鍛冶関係出土遺物



2. 5・6世紀 古墳時代中期 大渡来前夜

5世紀古墳時代中期になると近畿では 下記に示す如く 大量の朝鮮半島製品が出土する。そして、朝鮮半島では それを支える朝鮮半島南岸の遺跡群があった。

5・6世紀朝鮮半島の遺物を出土・副葬する近畿の遺跡

- 加古川市 行者遺跡 金銅製帯金具・巴形銅器・大量の鉄素材(鉄ディ)
- 姫路市 宮山古墳 銀錯貼金環頭大刀・三葉環頭大刀・魃龍鏡・金製垂飾付耳飾
- 八尾市 心号寺山古墳 菱鳳(きぼう)鏡・三葉環頭大刀・甲冑
- 岸和田市 三田古墳 三葉環頭大刀(先端が尖った中葉の三葉環頭の 栄山江流域の太刀の特徴)
- 三木市 窟屋1号墳 貝製飾り金具・金銅製半鳳環頭大刀の柄頭 (盗掘を受けている)
- たつの市 中井1号墳 三葉環頭大刀 (3つのC字を組み合わせた環頭の新羅系の太刀の特徴)
- 大阪市平野区 長原七ノ坪古墳 百済系の片袖式横穴式石室 新羅系鍔付き鉄鉾など百済・新羅の文化要素の混在
- 大阪市平野区 長原166号墳 伽耶北部(大伽耶)や百済南部でみられるミニチュア鉄製品の副葬
- 柏原市 高井田山古墳 百済に特徴的な夫婦合奏の可能性・片袖式横穴式石室 銅鏡・熨斗・多数の額飾や耳飾
- 羽曳野市 峯ヶ塚古5・6世紀 朝鮮半島の遺物を出土or副葬する歓喜の遺跡 来系が加わった6世紀の墓

朝鮮半島の大刀 環頭に見る地域の特徴



銀錯貼金環頭
百済で成立伽耶で発展



三葉環頭
伽耶や百済南部に多くあり、
新羅の蔚山にもある



三葉環頭
栄山江流域の特徴
先端が尖った中葉



三累環頭
3つのC字を組合わ
せた環頭の新羅系

東アジア交易の架け橋として 倭と中国 両方とのとのつながりを示す大成洞古墳群

釜山広域市の西隣 金海市にあり、3～4世紀の古墳から 中国東北地方や倭とかわる副葬品が多数出土する古墳群で、東アジア交易の架け橋として 倭と中国 両方とのとのつながりを示す。

この大成洞古墳群の集団は数多くの金色の中国系遺物が被災者近くに置かれていたことから、
帯方・楽浪郡滅亡(313年)後も依然中国と交渉があり、倭からすれば、中国への架け橋的な存在だった。



金具・バグなど中国系遺物の出土



筒形銅器・巴形銅器・銅矛など 日本でも出土する遺物



銅矛 北部九州の弥生時代後期後半頃
2～3世紀の 祭祀用青銅製広形銅矛

次に鍛冶具についてみる。
鉄素材を熱して、叩いて、鉄製品を作る鍛冶技術。
三国時代朝鮮半島では日本よりずっと進んでいて、数多くの鍛冶具が使われていた。しかし、これらの鍛冶工具を副葬するのは非常に限られた地域で、上雲里遺跡(全羅北道)を除くと洛東江東岸 新羅の領域に多く分布する。

一方 日本の古墳からは刀剣類・鉄製品とともに鍛冶具が出土するという。今まで知らなかった朝鮮半島の鍛冶技術の話である。
これらの鍛冶具を副葬する古墳が近畿でも相次いで現れる。5・6世紀を通じて大和で多いが、吉備でも複数。
百舌鳥大塚山古墳やカンス塚古墳など首長級ばかりでなく、群集墳内の小さな古墳にも事例がある

鉄鉗・鉄槌・鉄鑿はいずれも、高温になった鉄素材を安定して加工するのに必須の工具であり、これらの使用により、鉄素材の金切加工から高温鍛造へと技術が高度化していることに注目したい。

5世紀になって 近畿周辺・大和では鉄器生産技術の飛躍的向上 高温鍛造を伴う実用鉄器製作が始まった。これらの工具は鍛冶工房で使われていたはずであるが、そのほとんどが、古墳の副葬品として出土する。
集落遺跡から鍛冶工具が出土した数少ない事例が布留遺跡の鉄鉗で、ほかにも朝鮮半島系土器が数多く出土しており、渡来人が鉄器生産にかかわっていたとみられる。鉄鉗が出土した地点では椀型滓が多量に出土し、高温鍛冶が行われていたことを示す。また、確か鉄鍛冶の新技术を持つ「韓鍛冶」の言葉が登場するのもこの頃で、鉄技術の展開には新羅系渡来人の流れは無視できないと思える。

このほか、特別展で見た渡来人の足跡を示す遺物例下記に示す。

5・6世紀の古墳時代中期 近畿地方から出土する遺物からは 新羅からの渡来を思わせるものも多く、友好国百済 敵対国新羅の中央イメージからは異なっている。また同時に地域が新羅と地域間交流を進めていた様相も想定される。

長い飾りを持つ金製垂飾の付耳飾り
垂れ飾りがある耳飾りは朝鮮半島にはあまりなく、倭国に独特な装飾であった



玉類 魚佩・花飾り 鬘斗



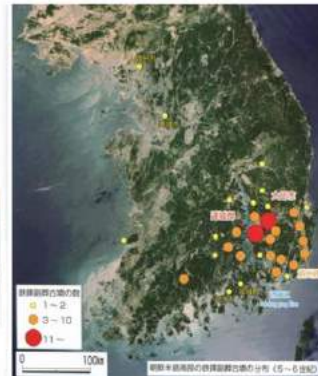
ミニチュア鉄製品
1-3 鍔状鉄片 4 手鐲 5 鍔片 6 角を折り返した鉄製品
加耶(北部大加耶)や百濟南部でみられるミニチュア鉄製品



鍔付鉄鉗
1・2は新羅3は高句麗に
類似が見られる



新羅の音 鉄鑿 鉄板を巻いて作った鈴のような新羅の鐘響器(鈴)に似た鐘響器(鈴)の鳴り物
5~6世紀の朝鮮半島では新羅の古墳に副葬。一方集落からはほとんど出土しない。
日本列島に鉄鑿の分布を採ると新羅との接点が見いだせる



◆ 5・6世紀の津山盆地の渡来文化 近畿地方周辺の鉄鑿副葬の注目点

吉備北部の中心地で美作国の国府がある津山盆地。ここでは東隣の小盆地勝安町を含み、近畿中心部ではみられぬ朝鮮半島に由来する習俗がいろいろ見られ、小地域単位の独自の対朝鮮半島との交渉の繋がりをもち、近畿への渡来文化伝播の注目地。

- 洛東江東岸の新羅の習俗 古墳主体部への土器 そして鉄鑿の副葬がみられる。



近畿地方周辺の鉄鑿副葬古墳の分布



新羅の鐘響器の伝播

- ◆ 大加耶の王墓を含む古墳群 大加耶古墳群 新羅の大加耶王墓を含む古墳群の副葬品の新羅文化 5~6世紀の朝鮮半島では新羅の古墳に副葬。一方集落からはほとんど出土しない。日本列島に鉄鑿の分布を採ると新羅との接点が見いだせる。



- ◆ 日本に出土するすべてが、新羅では少くある円錐形の鉄鑿。円錐の鉄鑿である。
- ◆ 内蔵山第1号墳第一主体では鉄鑿とともに出る鉄製の鉄鑿器、土製器、鉄片、鉄釘、鉄板が一緒に出土している。ほかの古墳でも同じく土器・鉄製品などと一緒に鉄鑿が出土。
- ◆ 7世紀前半新羅では鉄鑿の副葬が行われなくなると、7世紀の鉄鑿の副葬は新羅との関係の弱体化といえ、7世紀も鉄鑿副葬の風俗が日本でも継承されてきたことを示す。



3. 5世紀以降 近畿周辺での集落遺跡に渡来人の足跡を探す 新しい生活様式と渡来人 集落遺跡出土品から見たふるさと探し

中河内の開発拠点の長原遺跡にみる渡来人の痕跡

多数の朝鮮系半島系土器と炊飯具の出土 その大半は百済系

長原遺跡の北は河内湖につながる旧大和川による沖積地が広がり、この河内湖沿岸の治水・灌漑事業に渡来人の土木技術が貢献し、長原はその開発の拠点集落で、多数の鉄滓など鍛冶工房にかかわる遺構も出土。

長原遺跡は多数の朝鮮半島系の土器が出土が特徴的。5世紀初めにいち早く、甑・鍋・長胴甕といった炊飯具のセットを受け入れ、その大半が百済系。また、還元焰小生の土器(陶質土器・初期須恵器)が多く出しているのも特徴。この集落には渡来人の生活の数多くの痕跡が残っている。

● 百済系長胴甕には縄文タタキが残っており、この縄文タタキを施す事例は栄山江には少なく、錦江流域で多く見られるので、故地を知る一つの手がかりである

また、生駒山の西 河内湖の北西部に広がる平地には部屋北遺跡など朝鮮半島系の資料並びに馬にかかわる資料が数多く出土する遺跡が多数存在。百済系渡来人が多数かかわった馬の放牧繁殖地で 河内馬飼の里と呼ばれる地である。



5世紀中河内長屋遺跡出土朝鮮半島系炊飯具 と土器

◆生駒山の西 河内湖の北西部に広がる平地 部屋北遺跡など河内馬飼の里
朝鮮半島系の資料並びに馬にかかわる資料が数多く出土する遺跡が多数存在。
百済系渡来人が多数かかわった馬の放牧繁殖地で と呼ばれる地である



【1】甑 甑の底の分類 平底の百済系 丸底の伽耶・新羅

① 葛梅里 (忠清南道牙山市)

② 仙岩洞 (光州広域市)

③ 佳川洞 38 号石槨墓 (大邱広域市)

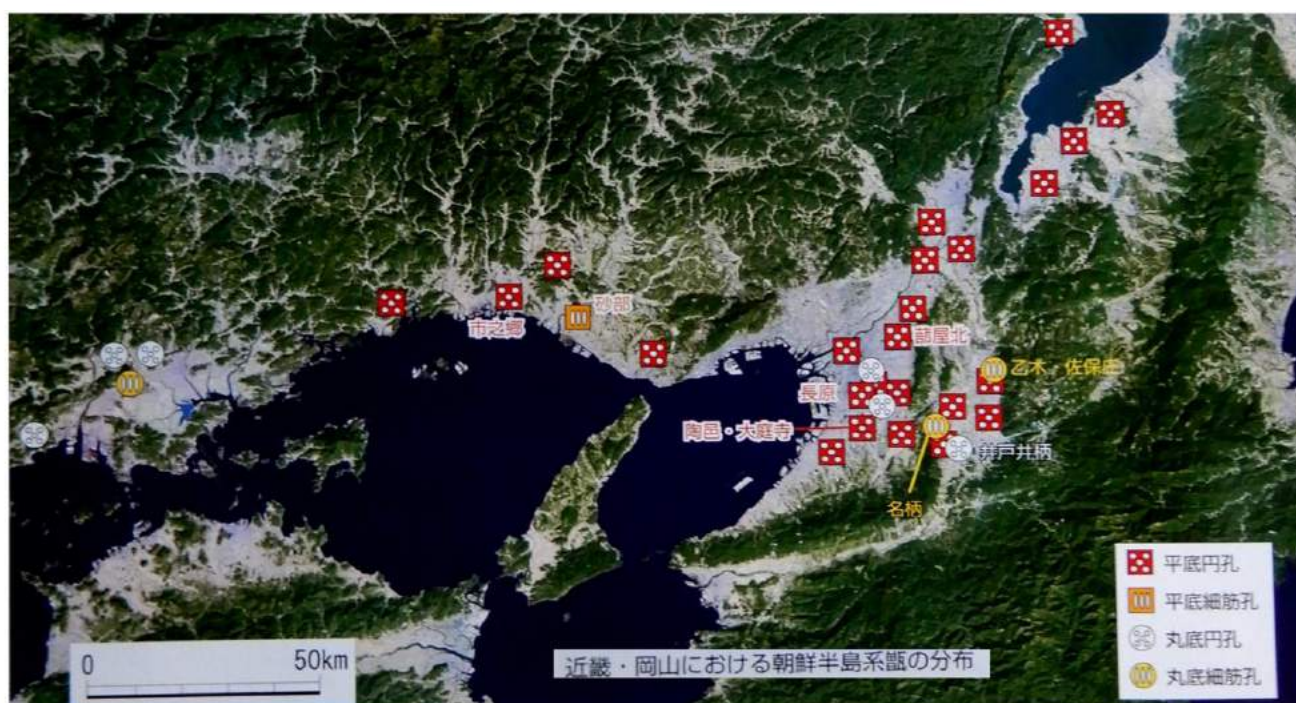
④ 会峴洞 (慶尚南道金海市)

平底丹孔
丸底丹孔
丸底細筋孔

土器のスケール



丸底細筋孔 新羅甌



伽耶系甌 八尾南遺跡
5世紀



百濟系甌 長原遺跡
5世紀



新羅系甑 長柄遺跡
5世紀

洛東江東岸の新羅的文化要素で 百済からは1点も出土なし



日本での角杯の出土は5世紀後半から6世紀前半 近畿の
周辺部で出土が多く、角杯生産地も播磨と若狭で 当時の
須恵器生産の中心地陶邑では出土せず。
横穴式石室を有する古墳などが存在し、北部九州などと日
本海地域交流があった若狭。

その若狭で 渡来人の技術を取り込み、角杯生産を取り入れた若狭の首長は中央を介せず、角杯生産を通じ、地域間交流を進めていたことが角杯の分布からも読み取れる。

また、洛東江東岸の新羅が故地である角杯。そして 唯一の主生産地が若狭であることを考えると若狭は北部九州のみならず、新羅と早くから独自の交流を進めてきた一面も考えられる。

今回の特別展で 気になって 着目したことを書きに示す。

1. 弥生時代末からの日本への製鉄・鍛冶技術の渡来について

4世紀以前 近畿に見える渡来文化【1】 弥生時代

弥生時代近畿では朝鮮半島から直接交流で文化が入った兆候はまだ見られない

4世紀以前 近畿に見える渡来文化【2】 古墳時代前期 初期ヤマト王権の中心 纏向遺跡

朝鮮半島から搬入された土器(土器片)は近畿地方では一番多く、伽耶や馬韓からの搬入品

古墳時代前期後半金官国との威信材の交流に先駆けて、ヤマトの中心地に伽耶の文化要素が見られ、鍛冶具が搬入されている。

4世紀以前 近畿に見える渡来文化【3】 古墳時代前期 (4世紀) までの朝鮮半島系土器 まとめ

近畿地方特にヤマトには、古墳時代の開始とともに巨大な前方後円墳が登場し、多量の鏡や鉄製品が副葬され、他地域を圧倒する。この背景にはヤマトを中心とした広範な北部九州・朝鮮半島をつなぐネットワークの成立があり、朝鮮半島からの物資・技術が大量に大和にもたらされたためである。

その交流の目安となる朝鮮半島系土器を眺めてみると

近畿地方での古墳時代前期以前の朝鮮半島系土器は30点程度あり、瀬戸内や山陰の土器総量と比較しても多い。

また、1遺跡あたりではタタキの破片が10数点出ている萱振遺跡を除けば大和の中心地 纏向遺跡1つのみで

多数の伽耶・馬韓系の土器を出土。ただし、北部九州と比較するとその数は足元にも及ばない。

- ◎ 杵岐原の辻:弥生後期から古墳前期の楽浪土器や三国時代の陶質土器が無数に出土
- ◎ 楽浪土器は北部九州 伊都国三雲や奴国雀居で出土しているが、近畿では一点も出土していない。
- ◎ 博多湾に面する西新町では三国時代初頭の朝鮮半島土器が多数出土するとともに、古墳時代前期の段階で日本列島でいち早く竈を持つ堅穴建物(約100棟)が見つかっている。
- ◎ 博多遺跡ではカマボコ形断面の轆轤口を用いての大規模な鉄器生産が行われている。

これから見ると古墳時代前期の段階までは依然として 朝鮮半島との人的交流を始めた北部九州が大陸の情報多く持ち合わせ、ダイレクトに大陸の情報が近畿に流入するのは5世紀の古墳時代中期を待たねばならない。

しかし、纏向遺跡など倭の中心には直接北部九州と結びついて、周辺地域にみられぬ朝鮮半島南部伽耶・馬韓系の文物が入っている。ヤマトは北部九州との交流を通じて、朝鮮半島の文物を独占的に取り込んでいたと考えられる。

一方、北部九州では古墳時代前期すでに朝鮮半島との交流が急速に進み、博多遺跡ではカマボコ形断面の韃羽口を用いての大規模な鉄器生産が行われているとみえる。これらから、朝鮮半島・北部九州・近畿を結ぶ海人たちの存在がクローズアップされ、近畿はまだまだ海人たちに頼る時代であったようだ。

また弥生時代後期から古墳時代にかけての鍛冶技術について、フィゴによる高温素材加熱・高温鍛造を伴う加工技術がいつ始まったのか？諸説があるが、朝鮮半島と各地とのつながりを見る限り、北部九州の博多遺跡が最初で、博多遺跡を通じて国内各地に実用鉄器が搬入されたように見える。

また、弥生時代の鍛冶工房や朝鮮半島から搬入された大量の鉄テイなどが各地で見つかっているが、縦向遺跡をのぞいて、それらは金切加工が主の低温鍛冶であったとみえ、北部九州の新技術は近畿に入っていない。

- また、渡来人を通して、忘れられがちな中央を介さないような地域間交流の道の重要性を
しっかり見れたのも収穫でした。

[illegible]

大阪歴史博物館 特別展「渡来人 いずこより」図録 2017.5.18.

図録資料を私なりに抜粋整理しました by Mutsu Nakanishi

日本列島と朝鮮半島との間の交流は古くからあり、朝鮮半島の文化は日本文化の形成にも大きな影響を与えた。文化を伝える役割を担ったのは「渡来人」と呼ばれる人たち。その足跡は朝鮮半島の文物からたどることができる。しかし、渡来人の出身地である朝鮮半島では、それぞれの地域に個性的な文化があり、特に数多くの渡来人が大陸・半島の新しい文化を伝えた三国時代(4～7世紀)には高句麗・新羅・百濟・伽耶といった国々に分れて存在するため、それらをひとくくりにはできない。

よって、その文物が「いずこより」もたらされたかを明確にすることにより、渡来文化の具体像、さらには細かな歴史的背景が見えてくる。

この特別展では近畿地方やその周辺地域で出土した朝鮮半島に関する資料で展示を構成しながら、渡来人の「出身地」にスポットを当てて、当時の具体的な交流像をビジュアルに描く。

展示では中央を介さないような多様な交流など、多様な交流の歴史があったことを伝えながら、改めて両地域の文化への関心を高め、交流を深めることにつなげる。

大阪歴史博物館 特別展「渡来人 いずこより」パンフレットより



関連行事

(1)「渡来人 いずこより」スライド会

渡来人の故郷の道標や自然を紹介しながら、展示の見どころについて話します。

【日 時】平成29年5月27日(土)午後2時～3時(開場は午後1時30分から)

【場 所】当館学芸員 寺井誠

【会 場】大阪歴史博物館 4階 講堂

【参加費】200円(特別展の観覧券もしくは半券提示の方は無料)

【参加方法】当日直接会場へお越しください。(先着順・定員250名)

(2) 学芸員による展示解説

【日 時】平成29年4月29日(土・祝)、6月3日(土)

※各回とも午後2時から30分程度

【場 所】当館学芸員 寺井誠

【会 場】大阪歴史博物館 6階 特別展示室内

【参加費】無料(ただし、入場には特別観覧券が必要です)

【参加方法】当日直接会場へお越しください。

大阪歴史博物館 特別展「渡来人 いずこより」概要2017.5.18.

日本の国づくりが急速に進む時代 朝鮮半島から数多くの渡来人がやってきて、先進文化・技術を伝えた。

その渡来人たちが都への道の第一歩を踏み出した地「難波」。そんな難波の地にある大阪歴史博物館で特別展「渡来人いすこより」が開催されている。

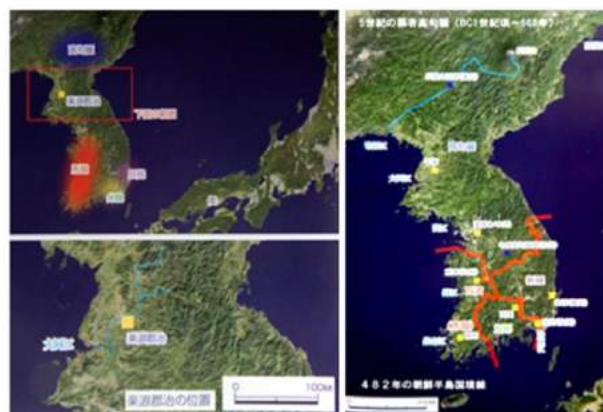
パンフレットによれば²⁹

「近畿地方やその周辺地域で出土した朝鮮半島に関係する考古資料から、古代 日本列島にやって来た渡来人の「出身地」にスポットを当て、古代の多様な交流像を具体的に描く」のが目的と。



展示内容 **展示区分**

1. 渡来人とその故郷
2. 楽浪、東アジアの文明の扉を開く
3. 大渡来前夜 近畿地方における4世紀以前の朝鮮半島系遺物
4. 舶来品を手に入れて 古墳出土品から見たふるさと探し
5. 新しい生活様式と渡来人 集落遺跡出土品からふるさと探し
6. 角杯と鳥足文 特徴的な土器から見たふるさと探し
7. 難波と朝鮮半島 上町台地北端を舞台とした朝鮮諸国との交渉



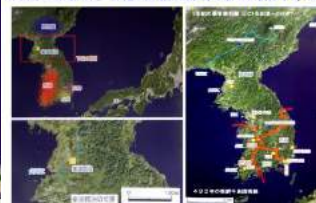
渡来人とその故郷 朝鮮半島 東アジアの文明の扉を開いた国による華夷郡の設置 BC108

約1800年前 日本で宮づくりが始まるころ、大連の先進文化を日本列島に伝えて大きな影響を与えた朝鮮半島の渡来人。
「朝鮮半島との交流が盛んになる中、大量の渡がヤマト王権にもたらされ、また半島の人々などが一旗かまきと移り住むことも増えた。これらの人々を渡来人という。渡来人は日本に住んで、土・磁器・馬具や金属加工・織物・須臾器を作る技術を伝えた。」

また、漢字・儒教・仏教などを伝えるとともに、ヤマト王権での記録や財政・政治にもたずさわり、その後の日本の技術や文化に大きな影響をあたえた。図録より 書き写し。

そんな渡来人たちの朝鮮半島の故地はどこか？ また どんなルートをしたどり、日本のどの地域で先達技術者を育んだか？ 日本の国づくりが始まる前 日本の資料のみではつきりしなかった歴史的背景や直来文化・技術が与えた影響などが一冊はつきり浮かび上がってくる。

朝鮮半島が大陸の先進技術を持ちこんだのはBC108年中国王朝漢が漢景都を設置し、朝鮮半島支配をはじめ、それを契機として高度な中国文明が周辺諸国に流れ込み、周辺諸国それぞれが先進文明を取り入れて、国づくりをすめた。対馬海峡を挟み隣する日本にも先進の文財が流れ込むことになった。大陸の先進文化取得の窓口が朝鮮半島であった。



朝鮮半島北部では、高句麗が台頭し、南部では馬韓50余国
弁韓12国辰韓12国の中から、百濟・伽倻・新羅が台頭し、
日本列島各地や倭とも緩やかなつながりを持つ。

その後果敢郡は313年高句麗に滅ぼされることとなり、南部では 三国が競うあう三国時代にはいる。
この中で 百济は高句麗に滅ぼされ、併に助けを求めたが

568年の新羅によって滅ぶ。
伽耶は豊饒に鉄を産する鉄の王国であったが、百済や新羅に侵食され、562年新羅に併合される。
一方、新羅は5世紀末高句麗に屈服しつつ黄金の国として、550年唐百濟の領域、562年伽耶を制圧し、高句麗・百濟立するが、最終的に朝鮮半島を統一する。

これら朝鮮半島の混乱は隣国日本にも影響が数多くあらわれ、
大量の難民が生まれる背景となる。

新羅は倭に敵対する勢力と広くされているが、考古資料からは新羅品のものも数多く、日本列島各地と広く交流があったことがわかる。



4世紀以前 近畿に見える遺来文化【1】 弥生時代

弥生時代近畿では 朝鮮半島から直接交流で文化が入った事情はまだ見られない

弥生時代近畿に朝鮮半島の文化が直接渡来したというよりも、地域から階の地域へ新文化が伝えられながら、広がったというのが、実体で、硬質土器や土骨がみられ、後期には格子タタキの土器が断片的にみられるようになる。この格子タタキの土器文化は定着しなかった。



4世紀以前 近畿に見える遼東文化【2】 古墳時代前期 初期ヤマト政権の中心 畿内道跡
朝鮮半島から輸入された土器(土器片)は近畿地方では一番多く、朝鮮や馬韓からの輸入品
また、古墳時代前期後半金官國との感徳村の交流に先駆けて、ヤマトの中心地に朝鮮の文化要素が見られる



4世紀(末)以前 近畿に見える遼東文化【3】 近畿地方における古墳時代前期 (4世紀) までの朝鮮半島系土器 まとめ

近畿地方特にヤマトには古墳時代の開始とともに巨大な前方後円墳が台頭し、多量の銅や鉄製品が副葬され、他地域を圧倒する。この背景にはヤマトを中心とした広範なネットワークの成立があり、朝鮮半島からの物資・技術がヤマトにもたらされたためである。その交流の証となる朝鮮半島系土器を挙げてみる。
近畿地方での古墳時代前期以前の朝鮮半島系土器は30点程度あり、瀬戸内や山陽の土器産量と比較しても多い。また、1遺跡あたりではタタキの板片が10数点出ている数遺跡を除けば、畿内道跡で、朝鮮・馬韓系の土器、ヤマトの中心地での出土。
ただし、北部九州と比較すると足元にも及ばないこともよく知られておかなければならない。

- ① 香取原の遺跡: 持統後期から古墳前期の系土器や三世紀の銅質土器が多数出土
- ② 家浪土器は北部九州 伊都国三雲や筑前省南で出土しているが、近畿では一点も出土していない。
- ③ 博多湾に面する福岡市では三世紀初頭の朝鮮半島系土器が多数出土するとともに、古墳時代前期の成層で日本列島で最も早く銅を溶かした遺物が100点以上見つかった。
- ④ 博多遺跡ではカマボコ形断面の輪郭口を用いた大規模な鉄器生産が行われていた。

これらから推察すると古墳時代前期の段階までは、近畿として北部九州が大陸の情報多く持ち合わせ、ダイレクトに大陸の情報が近畿に流入するよりはるかに古墳時代中期を待たねばならない。
日本における鉄器や銅器の生産については、いろいろの説があるが、
豊後大村土教授は日本における実用鉄器の鉄素供給体制の確立は、畿内製片をあまり伴わずに大量の高温溶融鉄液が出土する多数の銅器が出土する博多遺跡にはじまるとしている(李我考古学137号 関さかじりby M.Nakanishi)こととよく符合する。



畿内道跡出土銅口と鉄片

博多遺跡 銅口関係出土遺物

4世紀(末)以前 近畿に見える遼東文化【4】 古墳から出土する朝鮮半島との交流を示す筒形銅器と三角縁神獣鏡の
大穴古墳群などの近海地域・釜山広域市の福泉洞古墳群で集中的に出土する筒形銅器
と三角縁四神鏡



古墳前期の古墳 直島塚古墳から出土した筒形銅器と鏡

近海博物館所蔵 筒形銅器



4世紀中頃から後半 前方後方墳 羽曳野市直島塚古墳より
筒形銅器と三角縁神獣鏡出土

近海博物館所蔵 筒形銅器

釜山広域市の西隣 近海市にある大成洞古墳群
4世紀(末)以前 近畿に見える遼東文化【5】 東アジア交易の架け橋 倭と中国とのつながり 大成洞古墳群
3~4世紀にかかわる古墳から中国東北方や倭とかわる副葬品が多数出土



金具・バグなど中国系遺物の出土

筒形銅器・巴形銅器・銅矛など 日本でも出土する遺物

銅矛 北部九州の古墳時代後期後半
2~3世紀の 倭国青銅製出土銅矛

大成洞古墳群の集団は、数多くの金色の中国系遺物が密着して置かれていたことから、帯刀・装束
彫刻に倭も依然中国と交渉があり、倭からすれば、
中国への受け皿的な存在だった

手に入れた舶来品 5・6世紀ごろの古墳出土品から見たふるさと探し 【1】

5・6世紀朝鮮半島の遺物を出土・副葬する近畿の遺跡

- 加古川市 行者遺跡 金銅製帯金具・巴形銅器・大量の鉄素材(鉄ティ)
- 姫路市 宮山古墳 銀錯貼金環頭大刀・三葉環頭大刀・魑龍鏡・金製垂飾付耳飾
- 八尾市 心号寺山古墳 夔鳳(きほう)鏡・三葉環頭大刀・甲冑
- 岸和田市 三田古墳 三葉環頭大刀(先端が尖った中葉の三葉環頭の 栄山江流域の太刀の特徴)
- 三木市 窟屋1号墳 貝製飾り金具・金銅製半鳳環頭大刀の柄頭 (盗掘を受けている)
- たつの市 中井1号墳 三葉環頭大刀 (3つのC字を組み合わせた環頭の新羅系の太刀の特徴)
- 大阪市平野区 長原七ノ坪古墳 百済系の片袖式横穴式石室 新羅系鍔付き鉄鉾など百済・新羅の文化要素の混在
- 大阪市平野区 長原166号墳 伽耶北部(大伽耶)や百済南部でみられるミニチュア鉄製品の副葬
- 柏原市 高井田山古墳 百済に特徴的な夫婦合奏の可能性・片袖式横穴式石室 銅鏡・熨斗・多数の額飾や耳飾
- 羽曳野市 峯ヶ塚古5・6世紀 朝鮮半島の遺物を出土or副葬する歓喜の遺跡 来系が加わった6世紀の墓

朝鮮半島の大刀 環頭に見る地域の特徴



銀錯貼金環頭
百済で成立伽耶で発展



三葉環頭
伽耶や百済南部に多くあり、
新羅の蔚山にもある



三葉環頭
栄山江流域の特徴
先端が尖った中葉



三葉環頭
3つのC字を組合わ
せた環頭の新羅系

手に入れた舶来品 5・6世紀ごろの古墳出土品から見たふるさと探し【2】

長い飾りを持つ金製垂飾り付耳飾り
垂れ飾りがある耳飾りは朝鮮半島にはあまりなく
倭向けに伽耶で作られた



ミニチュア鉄製品

1-3 袋状鉄斧 4 手鎌 5 鋤先 6 角を折り返した鉄製品
伽耶北部(大伽耶)や百濟南部でみられるミニチュア副葬品



玉類 魚佩・花飾り 熨斗

玉類



魚佩・花飾り



熨斗



鐔付き鉄鉾

1・2は新羅3は高句麗に
類例が見られる



手に入れた舶来品 5・6世紀ごろの古墳出土品から見たふるさと探し【3】

鍛冶工具の副葬 鉄鉗・鉄槌・鉄鑿

鉄素材を熱して、叩いて、鉄製品を作る鍛冶技術。三国時代朝鮮半島では日本よりずっと進んでいて、
具が使われていた。しかし、これらの鍛冶工具を副葬するのは非常に限られた地域で、上雲里遺跡(全羅
北道)を除くと洛東江東岸 新羅の領域に多く分布する



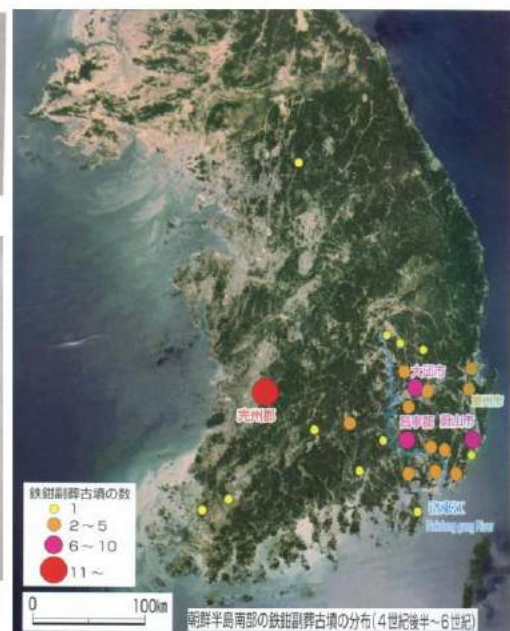
鉄鉗
三国時代(新羅:5~6世紀)
達城古墳(大邱広域市達城郡)



鍛冶工具 三国時代(新羅:5世紀) 義迎洞北洞(17) 200号石槨墓(蔚山広域市)



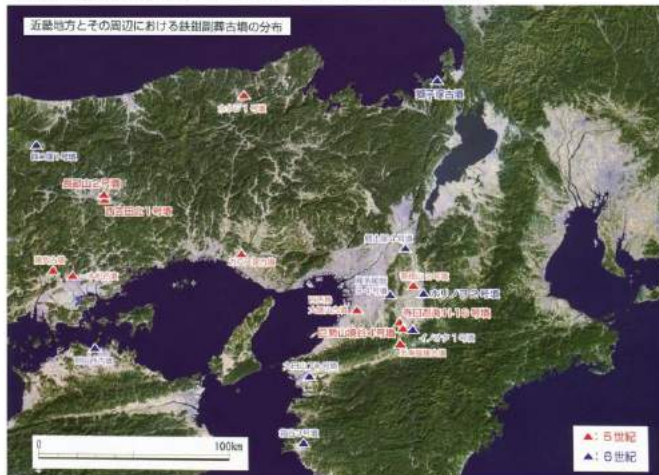
鍛冶工具 三国時代(新羅:6世紀)
林川・金谷33号石室墓(慶尚南道密陽市)



手に入れた舶来品 5・6世紀ごろの古墳出土品から見たふるさと探し【3】

近畿周辺の鍛冶工具

5・6世紀を通じて大和で多いが、吉備でも複数。百舌鳥大塚山古墳やカンス塚古墳など首長級ばかりでなく、群集墳内の小さな古墳にも事例がある



鉄鉗・鉄槌・鉄鑿はいずれも、高温になった鉄素材を安定して加工するのに必須の工具であり、これらの使用により、鉄素材の金切加工から高温鍛造へと技術が高度化していることに注目したい。

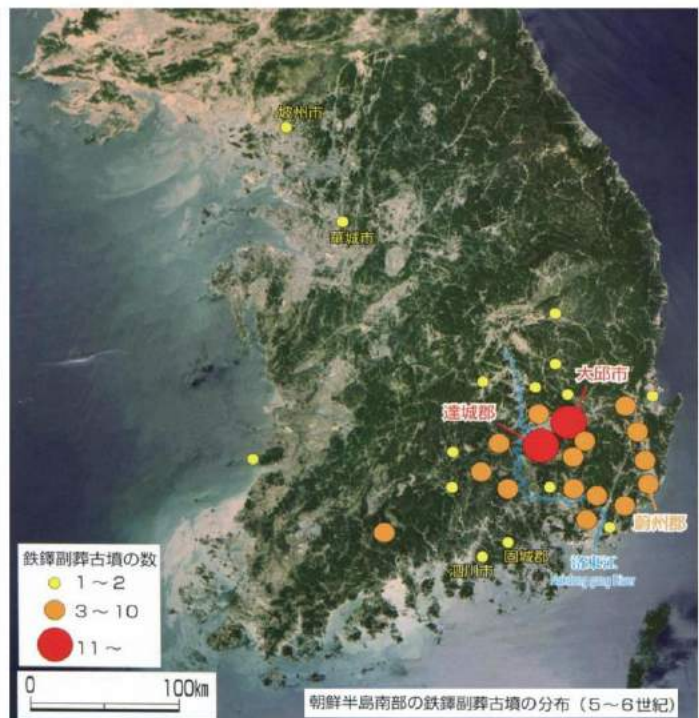
5世紀になって 近畿周辺・大和では鉄器生産技術の飛躍的向上 高温鍛造を伴う実用鉄器製作が始まった。これらの工具は鍛冶工房で使われていたはずであるが、そのほとんどが、古墳の副葬品として出土する。集落遺跡から鍛冶工具が出土した数少ない事例が布留遺跡の鉄鉗で、ほかにも朝鮮半島土器が数多く出土しており、渡来人が鉄器生産にかかわっていたとみられる。鉄鉗が出土した地点では梶型滓が多量に出土し、高温鍛冶が行われていたことを示す。

工房で使われた鍛冶工具



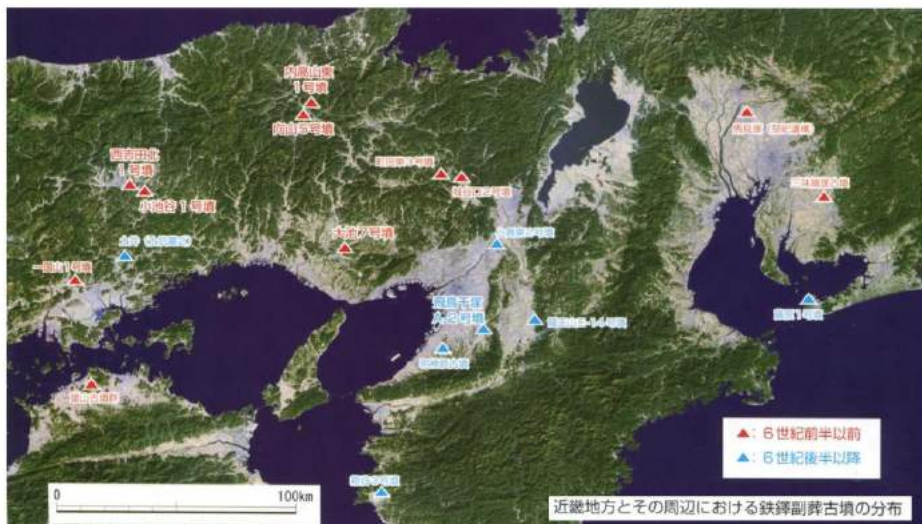
手に入れた舶来品 5・6世紀ごろの古墳出土品から見たふるさと探し【3】

新羅の音 鉄鐸 鉄板を巻いて作った鈴のような新羅の埋葬習俗に深く関わる鳴り物
5～6世紀の朝鮮半島では新羅の古墳に副葬。一方集落からはほとんど出土しない。
日本列島に鉄鐸の分布を探ると新羅との接点が見いだせる

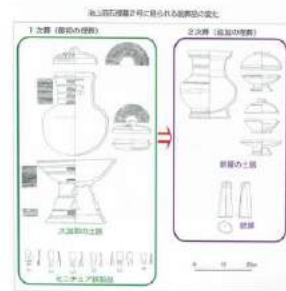


近畿地方周辺の鉄鐸副葬古墳の分布

新羅の埋葬習俗の伝播



◆ 大加耶の王墓を含む古墳群
池山洞古墳群
新羅の大加耶併合による副葬品の新羅同化
562年大加耶が新羅に併合される前後で副葬品に大きな変化がみられる。



播磨・但馬の鉄鐸

①大池7号墳（兵庫県三木市）、②・③向山5号墳（兵庫県朝来市）、
④内高山東1号墳（兵庫県朝来市）



◆日本で出土するすべてが、新羅では少数派である円錐形の形態。
今後の課題である。

◆内高山東1号墳第一主体では鉄鐸とともに5世紀中頃の須恵器・土師器・鉄刀・鉄鏃・鉄斧と一緒に積み上げられて出土。ほかの古墳でも同じく土器・鉄製品などと一緒に鉄鐸が出土。

◆7世紀前半新羅では鉄鐸の副葬が行われなくなるので、7世紀の鉄鐸の副葬は新羅との直接の関係というより、7世紀も鉄鐸副葬の風俗が日本で継承されてきたことを示す。

◆ 5・6世紀の津山盆地の渡来文化 近畿地方周辺の鉄鐸副葬の注目点

吉備北部の中心地で美作国の国府がある津山盆地 ここでは東隣の小盆地勝央町を含め 近畿中心部ではみられぬ朝鮮半島に由来する習俗がいろいろ見られ、小地域単位の独自の対朝鮮半島との交渉の繋がりをもち、近畿への渡来文化伝播の注目地。

● 洛東江東岸の新羅の習俗 古墳主体部への土器 そして鉄鐸の副葬がみられる。



鍛冶工具・鉄鐸と共伴土器
古墳時代中期（5世紀中頃）西吉田北1号墳（岡山県津山市）



埋葬主体部と鉄鐸等の副葬品出土状況
古墳時代後期（6世紀前半）小池谷1号墳（岡山県勝田郡勝央町）



新しい生活様式と渡来人 集落遺跡出土品から見たふるさと探し
5世紀以降 近畿周辺での集落遺跡に渡来人の足跡を探す

中河内の開発拠点の長原遺跡にみる渡来人の痕跡
多数の朝鮮系半島系土器と炊飯具の出土 その大半は百済系

長原遺跡の北は河内湖につながる旧大和川による沖積地が広がり、この河内湖沿岸の治水・灌漑事業に渡来人の土木技術が貢献し、長原はその開発の拠点集落で、多数の鉄滓など鍛冶工房にかかわる遺構も出土。

長原遺跡は多数の朝鮮半島系の土器が出土が特徴的。5世紀初めにいち早く、甗・鍋・長胴甕といった炊飯具のセットを受け入れ、その大半が百済系。また、還元焰小生の土器(陶質土器・初期須恵器)が多く出しているのも特徴。この集落には渡来人の生活の数多くの痕跡が残っている。

● 百済系長胴甕には縄文タタキが残っており、この縄文タタキを施す事例は栄山江には少なく、錦江流域で多く見られるので、故地を知る一つの手がかりである
また、生駒山の西 河内湖の北西部に広がる平地には葎屋北遺跡など朝鮮半島系の資料並びに馬にかかわる資料が数多く出土する遺跡が多数存在。百済系渡来人が多数かかわった馬の放牧繁殖地で 河内馬飼の里と呼ばれる地である。

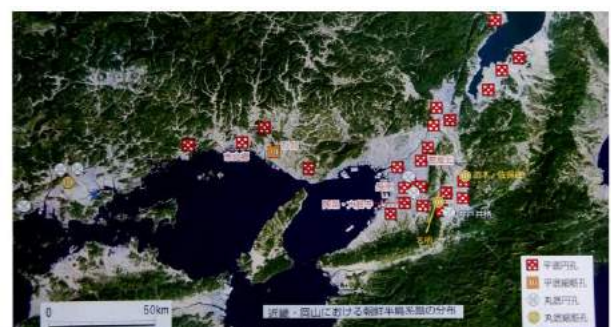
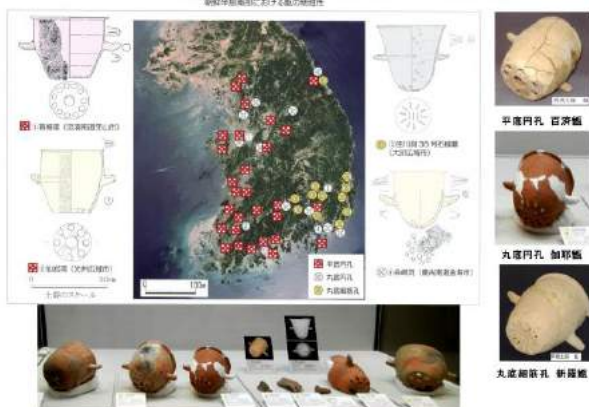


5世紀中河内長屋遺跡出土朝鮮半島系炊飯具 と土器

◆生駒山の西 河内湖の北西部に広がる平地 葎屋北遺跡など河内馬飼の里
朝鮮半島系の資料並びに馬にかかわる資料が数多く出土する遺跡が多数存在。
百済系渡来人が多数かかわった馬の放牧繁殖地で と呼ばれる地である



渡来人のふるさと探し 【1】甗 甗の産地 平産の百済系 丸産の百済系・新羅



5世紀渡来人が近畿に渡来してきたが、近畿地方では圧倒的に平産の百済系が多いが、河内では数が少ないが、丸産の百済系・新羅系の甗が出土し、朝鮮半島との交流相手が違っている。地域が中央とは別の交渉相手・ルートを持っているのが、「甗」からも見てくる。

渡来人のふるさと探し【2】朝鮮半島の角杯



日本での角杯の出土は5世紀後半から6世紀前半。近畿の周辺部で出土が多く、角杯生産地も播磨と若狭で、当時の須恵器生産の中心地両方では出土せず。横穴式石室を有する古墳などが存在し、北部九州などと日本海地域交流があった若狭。

その若狭で、渡来人の技術を取り込み、角杯生産を取り入れた若狭の首長は中央を介せず、角杯生産を通じ、地域間交流を進めていたことが角杯の分布からも読み取れる。また、洛東江東岸の新羅が故地である角杯。そして、唯一の生産地が若狭であることを考えると若狭は北部九州のみならず、新羅と早くから独自の交流を進めてきた一面も考えられる。

渡来人のふるさと探し【3】近畿地方へもたらされた様々な朝鮮半島土器の整理



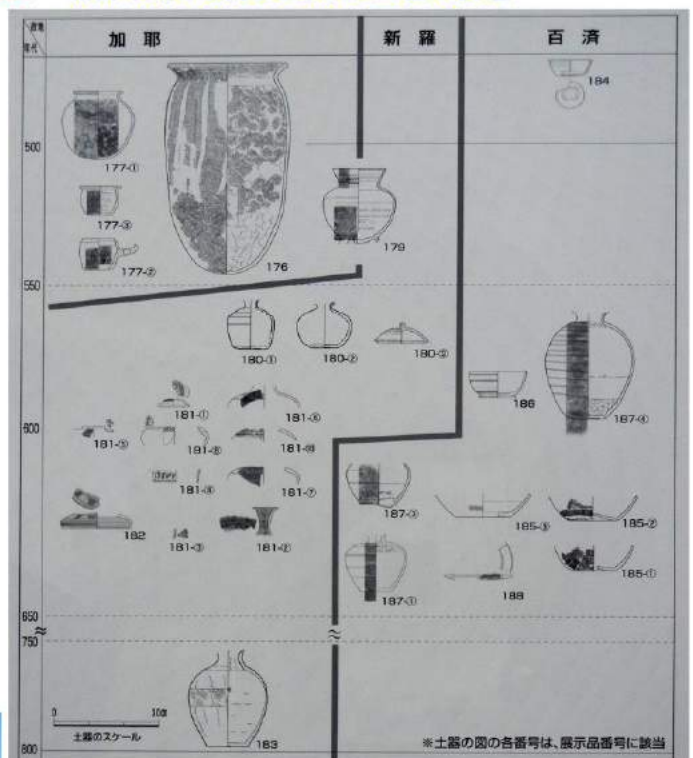
渡来人のふるさと探し【4】倭国外交の窓口 難波 朝鮮半島から持ち込まれた土器の変遷

難波では開発が始まる5世紀前半から朝鮮半島土器が見られるが、他地域と異なるのは6世紀以降の事例も多くあることである。系譜の分かるものには伽耶・新羅・百済土器があり、明らかな搬入土器もある。

6～7世紀でこれだけ多くの朝鮮半島の土器が出土している地域はほかにない。特に他地域ではほとんど見られない百済土器が複数点出土していることはヤマト王権が百済との交渉を独占して行っていたことの傍証でもある。

7世紀後半 難波遷都や難波長柄豊崎宮完成以降朝鮮半島土器が見られなくなり、飛鳥・藤原地域に集中するようになる。これは7世紀後半飛鳥時代の始まりとともに「外交の窓口難波」の役割が変化して、難波が滞在地从り通過点へ変化したことによる。

継続的に難波に渡来する常駐必要のある集落がなくなったことを意味するとともに、渡来の目的も変化し、帰化して日本社会に組み込まれてゆく時代になっていったのだろう。



難波における朝鮮半島からの搬入土器の変遷

Transition of the Imported Korean Pottery in Naniwa
나니와의 한반도에서 반입된 토기 변천

難波では6～7世紀の朝鮮半島からの搬入土器が数多く出土する。特に、他地域ではほとんど見られない百済土器が多いのは、百済とヤマト王権の関係を深さを示しているのであろう。なお、7世紀後半以降は激減する一方で、飛鳥・藤原地域で増加する。難波が滞在地から通過点に変わったことを物語る。



海沿いってばい。会場を出て、難波宮跡をぶらぶら。うれしい渡来人の特別展でした 2017.5.18. by Mitsuaki Nakagishi